2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	科学的思考の基盤	単位数	1 単位	柴田 慎一
科目名	情報科学 I	時間数	30 時間 15 回	古橋 寛子

科目概要

情報社会の現状を学び、情報リテラシーを向上させる。また、看護や医療に必要なエビデンスに基づいた情報を精査できる力、情報の取り扱いの重要性を理解する力を身につける。また病院の現場に導入されているデジタル技術(電子カルテ等)を理解するスキルを身につける。

授業目標

1 社会における情報の IT 化について学び、日常生活や医療の場面での情報倫理を学ぶ。
2 情報の意味と伝達や、人間・社会と情報の関わりについて学ぶ。
3 医療・患者情報の扱いにおけるセキュリティの重要性について学ぶ。
4 電子カルテの作成・管理、レセプト業務等を学ぶ。

DP との関連		
		1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	オリエンテーション ・本講義の概要説明	講義	古橋先生
2	情報と情報社会① ・情報の定義と特徴が理解する。	講義	古橋先生
3	情報と情報社会② ・社会と情報について理解する。	講義	柴田先生
4	保健医療における情報① ・保健医療と情報について理解する。	講義	古橋先生
5・6・7	保健医療における情報② ・看護と情報について理解する。	講義	古橋先生
8・9	保健医療における情報③ ・医療における情報システムについて理解する。	講義	柴田先生
10・11	情報と倫理① ・情報倫理と医療について理解する。	講義	古橋先生
12	情報と倫理② ・患者の権利と情報について理解する。	講義	柴田先生
13・14	情報と倫理③ ・個人情報の保護について理解する。	講義	柴田先生
15	情報と倫理④ ・コンピュータリテラシーとセキュリティについて理解する。	講義	柴田先生

受講上の注意 ： 課題は規定に沿って適確に提出すること。

評価方法 ： 終講試験 80% ・ 授業参加態度(出席状況、提出物等含む)20%

使用するテキスト ：「系統看護学講座 別巻 看護情報学」, 中山和弘 著, 医学書院, 2026 年板

2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	入学前	講義担当者
教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数	1 単位	藤川 秀幸
科目名	キャリア教育 ※入学前教育	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

入学前の自己学習を通じて、看護職としての職業倫理、キャリア形成、ライフバランス、自己啓発の重要性について考察し、看護職におけるキャリアの多様性とキャリア展望を理解する。

授業目標

1. 看護職としての職業倫理の基本を理解し、実践することができる。
2. 自らのキャリア形成に必要な計画を立て、実行することができる。
3. ワークライフバランスを維持するための方法を知り、適用することができる。
4. 自己啓発のための具体的なアクションプランを作成することができる。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護職としてのキャリアパスの理解 看護師としての職業倫理とその重要性、キャリアの多様性、看護師としての成長の段階を学ぶ。看護職の歴史とキャリア展望について探求する。	課題	
2	キャリアアップのための資格取得と進学 看護師としてのキャリアアップのための資格と進学、専門看護師や認定看護師、継続的な学習と専門知識の更新、学術研究と看護実践への応用	課題	
3	看護職のキャリアにおけるニーズへの対応 看護職に対する、ニーズの特徴と対応能力、看護師のキャリア発展と展望。職場におけるジェンダー平等性	課題	
4	コミュニケーションスキルとリーダーシップ 効果的なコミュニケーションスキル、看護職におけるリーダーシップ、チームワークと多職種連携、対象者やその家族との関係構築	課題	
5	自己学習の方法と重要性 自己学習の重要性と方法、キャリア形成における自己啓発の必要性、学習計画の立案と実行、専門知識とスキルの向上	課題	
6	自己学習継続から看護実践能力へ 自己学習継続の必要性を理解し、将来を担う看護師に求められる実践能力へとつなげる。	課題	
7	ワークライフバランスとストレスマネジメント ワークライフバランスの重要性と実現方法、看護職におけるストレスとその対処法、メンタルヘルスの維持と管理、自己ケアとリラクゼーション	課題	
8	総括と自己評価 学んだ内容を振り返り、自分のキャリアパスに対する理解度を自己評価する。	課題	

評価方法

課題プリント 100%

2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	入学前	講義担当者
教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数	1 単位	藤川 秀幸
科目名	一般教養 ※入学前教育	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

看護職に必要な科学的根拠に基づく判断や臨床現場でのコミュニケーション能力を養うための基礎として、理科、数学、国語、社会など、幅広い分野の基礎知識の習得を目指す。

授業目標

1. 基礎科学の知識を看護実践に応用することができる。
2. 数学的スキルを用いて、薬剤の計算やデータ分析を行うことができる。
3. 明確で効果的なコミュニケーションができる。
4. 社会的、文化的背景に基づく理解を深め、それを看護実践に活かすことができる。
5. 一般教養を基にした批判的思考能力を養う。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	理科の基礎 ①化学 化学の基本概念と人間の生理学に関する知識を理解する。 [身のまわりの物質][物質のなりたち][水溶液][酸とアルカリ、中和]	課題	
2	理科の基礎 ②物理 物理の基本原理を学び、それがどのように看護実践に応用されるかを学ぶ。[力のはたらき][圧力][力の規則性]	課題	
3	数学の基礎 ①計算 基本的な数学スキルを習得し、看護実践での応用を学ぶ。 [四則演算][分数と小数、割合] 数学的思考を用いて薬剤計算を行う能力を習得する。 [単位換算] [速さと濃度] [平均と比率]	課題	
4	数学の基礎 ②単位と数量関係 基本的な統計学の概念を理解し、データ解析に応用する。 [平均値、比例・反比例][基本的な統計グラフ]	課題	
5	国語の基礎 ①漢字の読み書き 一般教養科日と看護学の関連性を認識する。 [漢字の読み書き][看護学で使用される一般的な用語の読み書き]	課題	
6	国語の基礎 ②語彙、敬語、文章読解 自己学習の効果的な技術と戦略を身につける。 [一般的な語彙の使い方][敬語の種類と使い分け][正しい表現への訂正][主観的情報と客観的情報の仕分け][資料読解]	課題	
7	社会の基礎 ①生活を支えるしくみ 学際的思考と社会保障制度を学ぶ。 [生存権と社会保障制度][少子高齢化がもたらす問題]	課題	
8	社会の基礎 ②個人の尊厳、環境対策、倫理 権利と倫理を学び、将来の看護学習に適応する能力を高める。 [個人の尊重と権利][環境対策][倫理]	課題	

評価方法
筆記テスト 100%
使用するテキスト （理科・数学・国語・社会）看護学生スタートアップトレーニング　改訂2版 ―4科目の学びを「看護」につなげるワークブック　　児玉善子　監修、㈱メディカ出版、2020 年

2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数	1 単位	池山 草馬
科目名	社会学	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

社会の構造、文化、制度、そして人間行動の相互作用を理解し、対象を全人的に理解する。看護における社会的問題、健康格差、社会的決定要因について学び、対象者の社会的背景に配慮し対象理解ができる能力を養う。

授業目標

1 健康・病気の社会格差の原因と影響を分析できる。
2 地域社会と保健医療を社会学的視点で説明できる。
3 ケアをめぐる現代的課題について説明できる。

DPとの関連		
		1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	社会学の基本的概念 ・社会とは ・社会的行為と相互行為 ・制度化・地位－役割 ・集団 ・社会システムの考え方	講義	
2	医療者と患者の関係 ・合意とコンフリクト ・システムと主体性 ・本質と構造 ・結果と機能主義	講義	
3	健康・病気の社会格差 ・社会格差と平等 ・健康・病気の社会的格差 ・社会的格差と健康格差発生のメカニズム	講義	
4	職業と健康 ・職業とは ・働かせ方の変化 ・ディーセントワーク ・健康の影響 ・健康に影響する職場要因 ・仕事と生活の調和	講義	
5	保健・医療における行為・関係・組織・制度① ・健康行動・病気行動と病気体験	講義	
6	保健・医療における行為・関係・組織・制度② ・患者－医療者関係とコミュニケーション ・対人サービス提供者としての保健医療福祉関連職とアクター	講義	
7	保健・医療における行為・関係・組織・制度③ ・地域社会と保健医療	講義	
8	保健・医療における行為・関係・組織・制度④ ・ケアの社会学と対象領域	講義	

受講上の注意
社会でおきるさまざまな事象を題材として取り扱うため、ニュース等に関心を寄せること。 レポート提出は期限を守り提出すること。
評価方法
筆記テスト 80%　 レポート 20%
使用するテキスト
「標準看護学講座 基礎分野 社会学」, 井口高志 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「よくわかる社会学 第 2 版」, 宇都宮京子 著, ミネルヴァ書房, 2020 年 「クロニクル社会学」, 那須壽 著, 有斐閣社, 1997 年 「健康格差社会～何が心と健康を蝕むのか～第 2 版」, 近藤勝則 著, 医学書院, 2022 年 「社会学の基礎知識」, 塩原勉 著, 有斐閣社, 1980 年

2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数	1 単位	杉山 つぐみ
科目名	家族論	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

時代や社会背景によって変化する家族の現状について、客観的データや可視化できるツールを用い家族構造を理解する。さらに、多様化する家族の現状を知り、現代家族がかかえる問題について学ぶ。

授業目標

1 家族の捉え方には社会学、心理学、法学などさまざまな学問領域で注目する点が異なることを理解できる。
2 ジェノグラムやエコマップについてそれぞれの特徴と活用法・注意点が理解できる。
3 家族機能についてどのようなものがあるか説明できる。
4 現代における家族の特徴と、家族がかかえる課題が理解できる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	家族とは①	講義	
2	家族とは②	講義	
3	家族構造①	講義	
4	家族構造②	講義	
5	家族機能①	講義	
6	家族機能②	講義	
7	現代の家族とその課題①	講義	
8	現代の家族とその課題②	講義	

受講上の注意

講義前には、必ず、テキストを読み、質問を考えてくる。

評価方法

筆記テスト 80%、授業態度(レポート提出を含む)20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 別巻 家族看護学 第 2 版」, 上別府圭子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「三訂 新しい家族関係学」, 長津美代子 著, 建帛社, 2023 年

金谷有子:現代の家族関係と愛着に関する文献研究

2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人間と生活･社会の理解	単位数	1 単位	藤田 雄飛
科目名	生命倫理	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

人の誕生から死までに起こりうる様々な問題を通して、生命倫理の基礎から医療倫理、研究倫理など医療における倫理の重要性を理解する。さらに、自己の倫理に関する傾向を知り、正しい倫理判断ができる基礎を養うとともに、対象を全人的に理解する基礎とする。

授業目標

1 様々な死生観･価値観･信条等を受容することの重要性について説明できる。
2 自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べることができる。
3 生命の尊厳について自らの言葉で説明できる。
4 生命倫理の諸原則と医療倫理の諸原則について説明できる。
5 自己の倫理に関する考え方の傾向について説明できる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健･医療･福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)･学習内容･方法･備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	倫理概論① ･倫理･倫理学とは何か ･生命倫理とは何か ･医療人に求められる倫理	講義	
2	倫理概論② ･人権と患者の倫理	講義	
3	倫理理論① ･義務論 ･規範倫理学	講義	
4	倫理理論② ･メタ倫理学	講義	
5	倫理理論③ ･ケアの倫理 ･ナラティブ倫理	講義	
6	生命倫理の理論① ･生命倫理の４原則	講義	
7	生命倫理の理論② ･ヨーロッパの倫理原則	講義	
8	事例分析	講義	

受講上の注意

生命に関するさまざまな倫理問題を題材として取り扱うため、自己の意見を述べることができるようにする。レポート提出は期限を守り提出すること。

評価方法

筆記テスト 80% レポート 20%

2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数	1 単位	藤川 秀幸
科目名	心理学	時間数	18 時間 9 回	

科目概要

心理学の基本理論から応用までを網羅し、感覚・知覚、学習・記憶、感情・動機・欲求、社会心理学、発達心理学、臨床心理学について学ぶ。保健・看護分野での心理学の応用について理解し、全人的な看護実践に活かすための知識とスキルを身につける。

授業目標

1 心理学の基本的理論を理解できる。
2 感覚・知覚、学習・記憶、感情・動機・欲求、社会心理学、発達心理学、臨床心理学について理解する。
3 心理学の視点から多職種と協働し、効果的なチーム医療を提供する能力を身につける。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	心理学概説 ・心理学とは ・心理学の基礎理論と歴史	講義	
2	感覚・知覚 ・感覚・知覚の心理学 ・感覚と知覚のメカニズム	講義	
3	学習・記憶 ・学習・記憶の心理学 ・学習と記憶のメカニズム	講義	
4	感情・動機・欲求 ・感情・動機・欲求の心理学 ・感情・動機付け・欲求	講義	
5	社会心理 ・社会心理学 ・社会的相互作用を理解する	講義	
6～7	発達心理 ・発達心理学 ・ライフステージの発達	講義	
8	臨床心理 ・臨床心理学 ・心理疾患の理解とアプローチ	講義	
9	医療・看護と心理 ・医療・看護職と心理 ・心理的支援とストレス管理	講義	

受講上の注意

授業態度が著しく悪い場合は、評価を与えない。

評価方法

出席状況・授業態度・平常点・単位認定試験(筆記試験)等を基に総合的に評価を行う。

2026.4.1

使用するテキスト
講義用資料（レジュメ）を配布
参考文献
なし

2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	入学前	講義担当者
教育内容	人体の構造と機能	単位数	1 単位	藤川 秀幸
科目名	からだのしくみ ※入学前教育	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

看護師に必要となる人体の基本構造と機能について基礎知識を習得することができる。

授業目標

1. 人体の主要な器官系の構造と機能を理解することができる。
2. 人体の構造と機能を学ぶために必要となる基本的な医学用語を理解することができる。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	細胞、人体の理解に必要な化学 1. 人体を構成する細胞 2. 細胞と組織・器官系 3. 生体のエネルギー生成	課題	
2	血液循環のしくみ 1. 循環器系の構造と機能(心臓、血管、血液) 2. 心臓の動態と血液循環のメカニズム 3. 血液の成分とその機能 4. 血圧の種類と特徴	課題	
3	呼吸のしくみ 1. 呼吸の仕組みとガス交換 2. 主要な呼吸器官(鼻・咽頭・気管・肺) 3. 呼吸調節メカニズム	課題	
4	排泄のしくみ 1. 腎臓の構造と機能 2. 尿の生成と排泄のメカニズム 3. 水分と電解質バランスの調節	課題	
5	消化・吸収・代謝のしくみ 1. 消化のプロセスと関与する主要器官 2. 栄養素の吸収と代謝	課題	
6	骨格・運動のしくみ 1. 骨格の主要構造と機能(骨、関節、軟骨) 2. 骨格・関節の種類と働き 3. 主要な筋肉群とその機能(骨格筋、平滑筋、心筋) 4. 筋肉の収縮機構とエネルギー代謝	課題	
7	見る・聞く・触る・感じる・感じたことを行動につなげるしくみ 1. 目・鼻・耳の構造と機能 2. 聴覚・平衡感覚・臭覚・味覚・触覚のしくみ 3. 脳・神経系の構造と機能	課題	
8	ホルモンの働き・生命を生み出す・からだを守るしくみ	課題	

	1. ホルモンを分泌する臓器と構造 2. ホルモン調節 3. 男性と女性の生殖システムの構造と機能 4. 生殖に関わる主要ホルモンとその役割 5. 生体防御機能と免疫のしくみ		
評価方法 筆記テスト 100%			
使用するテキスト 看護学生プレトレーニング 人体のしくみ 第1版 増田敦子 メジカルフレンド社 2025 年			

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人体の構造と機能	単位数	1 単位	倉岡 晃夫
科目名	解剖生理学Ⅰ	時間数	20 時間 10 回	

科目概要

人体の構成と機能について具体的に学び、生命現象を理解する。特に、生命の最小単位である細胞の成り立ちや人体を構成する組織、そして栄養の消化吸収と尿生成の実際について学習し、専門分野を理解するための基礎とする。

授業目標

1 解剖生理学の基礎知識として、細胞、組織、人体の構成について理解する。
2 栄養の消化と吸収に関連した人体の構造と機能について理解する。
3 体液の調節と尿の生成に関連した人体の構造と機能について理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	解剖生理学のための基礎知識①	講義	
2	解剖生理学のための基礎知識②	講義	
3	解剖生理学のための基礎知識③	講義	
4	栄養の消化と吸収① ・口・咽頭・食道の構造と機能	講義	
5	栄養の消化と吸収② ・胃・小腸・大腸の構造と機能	講義	
6	栄養の消化と吸収③ ・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	
7	栄養の消化と吸収④ ・腹膜	講義	
8	体液の調節と尿の生成① ・腎臓	講義	
9	体液の調節と尿の生成② ・尿管・膀胱・尿道	講義	
10	体液の調節と尿の生成③ ・体液の調節	講義	

受講上の注意

人体の構造と機能を学ぶことは、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を身につける上で重要である。必ず、予習・復習を行い、確実に理解していくこと。
人体模型を常時見られるように準備するため、立体的にイメージできるようにすること。

評価方法

筆記テスト 100%

2026.4.1

使用するテキスト
「系統看護学講座 解剖生理学 第 12 版」, 坂井建雄･他 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「イメージできる解剖生理学」, ナーシングサプリ編集委員会, メディカ出版, 2016 年 「看護につながる解剖生理」, 小寺豊彦 著, 照林社, 2016 年 「ネッター解剖学アトラス」, 相磯貞和 訳, 南江堂, 2016 年 「ナースが視る人体」, 薄井坦子 著, 講談社, 1987 年 「解剖生理ワークブック」, 坂井建雄 著, 医学書院, 2022 年

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人体の構造と機能	単位数	1 単位	倉岡 晃夫
科目名	解剖生理学Ⅱ	時間数	20 時間 10 回	

科目概要

人体の構成と機能について具体的に学び、生命現象を理解する。特に、呼吸と血液の働き、血液の循環とその調節について学習し、専門分野を理解するための基礎とする。

授業目標

1 呼吸に関連した人体の構造と機能について理解する。
2 血液の組成と機能について理解する。
3 血液循環に関連した人体の構造と機能について理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	呼吸と血液のはたらき① ・呼吸器系の構造	講義	
2	呼吸と血液のはたらき② ・呼吸	講義	
3	呼吸と血液のはたらき③ ・血液	講義	
4	血液の循環とその調節① ・循環器系の構成 A	講義	
5	血液の循環とその調節② ・循環器系の構成 B	講義	
6	血液の循環とその調節③ ・心臓の構造	講義	
7	血液の循環とその調節④ ・心臓の拍出機能	講義	
8	血液の循環とその調節⑤ ・末梢循環系の構造	講義	
9	血液の循環とその調節⑥ ・血液の循環の調節	講義	
10	血液の循環とその調節⑦ ・リンパとリンパ管	講義	

受講上の注意

人体の構造と機能を学ぶことは、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を身につける上で重要である。必ず、予習・復習を行い、確実に理解していくこと。
人体模型を常時見られるように準備するため、立体的にイメージできるようにすること。

評価方法
筆記テスト 100%
使用するテキスト
「系統看護学講座 解剖生理学 第 12 版」, 坂井建雄･他 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「イメージできる解剖生理学」, ナーシングサプリ編集委員会, メディカ出版, 2016 年 「看護につながる解剖生理」, 小寺豊彦 著, 照林社, 2016 年 「ネッター解剖学アトラス」, 相磯貞和 訳, 南江堂, 2016 年 「ナースが視る人体」, 薄井坦子 著, 講談社, 1987 年 「解剖生理ワークブック」, 坂井建雄 著, 医学書院, 2022 年

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人体の構造と機能	単位数	1 単位	中島 民治
科目名	解剖生理学Ⅲ	時間数	20 時間 10 回	

科目概要

人体の構成と機能について具体的に学び、生命現象を理解する。特に、自律神経やホルモンによる調節、筋骨格系などによる運動のメカニズム、生体の防御機構について学習し、専門分野を理解するための基礎とする。

授業目標

1 内臓機能の調節に関連した人体の構造と機能について理解する。
2 身体の支持と運動に関連した人体の構造と機能について理解する。
3 生体の防御機構について理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	内臓機能の調節① ・自律神経による調節	講義	
2	内臓機能の調節② ・内分泌系による調節	講義	
3	内臓機能の調節③ ・内分泌器官の構造と機能	講義	
4	内臓機能の調節④ ・ホルモン分泌の調節と実際	講義	
5	身体の支持と運動① ・骨格とは	講義	
6	身体の支持と運動② ・骨の連結 ・骨格筋 ・体幹の骨格と筋	講義	
7	身体の支持と運動③ ・上肢・下肢・頭頸部の骨格と筋	講義	
8	身体の支持と運動④ ・筋の収縮 ・運動と代謝	講義	
9	身体機能の防御と適応① ・皮膚の構造と機能 ・生体の防御機構	講義	
10	身体機能の防御と適応② ・体温とその調節	講義	

2026.4.1

受講上の注意
人体の構造と機能を学ぶことは、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を身につける上で重要である。必ず、予習・復習を行い、確実に理解していくこと。 人体模型を常時見られるように準備するため、立体的にイメージできるようにすること。
評価方法
筆記テスト100%
使用するテキスト
「系統看護学講座 解剖生理学 第12版」, 坂井建雄・他 著, 医学書院, 2026年
参考文献
「イメージできる解剖生理学」, ナーシングサプリ編集委員会, メディカ出版, 2016年 「看護につながる解剖生理」, 小寺豊彦 著, 照林社, 2016年 「ネッター解剖学アトラス」, 相磯貞和 訳, 南江堂, 2016年 「ナースが視る人体」, 薄井坦子 著, 講談社, 1987年 「解剖生理ワークブック」, 坂井建雄 著, 医学書院, 2022年

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人体の構造と機能	単位数	1 単位	中島 民治
科目名	解剖生理学Ⅳ	時間数	20 時間 10 回	

科目概要

人体の構成と機能について具体的に学び、生命現象を理解する。特に、脳神経系や感覚器、生殖器などについて学習し、専門分野を理解するための基礎とする。

授業目標

1 情報の受容と処理に関連した人体の構造と機能について理解する。
2 生殖・発生と老化のしくみに関連した人体の構造と機能について理解する。
3 体表からみた人体の構造について理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	情報の受容と処理① ・神経系の構造と機能	講義	
2	情報の受容と処理② ・脊髄と脳・脊髄神経	講義	
3	情報の受容と処理③ ・運動機能と下行伝導路	講義	
4	情報の受容と処理④ ・感覚機能・体性感覚と上行伝導路	講義	
5	情報の受容と処理⑤ ・眼・耳の構造と機能　・味覚と嗅覚	講義	
6	情報の受容と処理⑥ ・痛み	講義	
7	情報の受容と処理⑦ ・脳の統合機能	講義	
8	生殖・発生と老化のしくみ① ・男性・女性生殖器	講義	
9	生殖・発生と老化のしくみ② ・受精と胎児の発生・成長と老化	講義	
10	体表からみた人体の構造	講義	

受講上の注意

人体の構造と機能を学ぶことは、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を身につける上で重要である。必ず、予習・復習を行い、確実に理解していくこと。
人体模型を常時見られるように準備するため、立体的にイメージできるようにすること。

評価方法
筆記テスト 100%
使用するテキスト
「系統看護学講座 解剖生理学 第 12 版」, 坂井建雄･他, 医学書院, 2026 年
参考文献
「イメージできる解剖生理学」, ナーシングサプリ編集委員会, メディカ出版, 2016 年 「看護につながる解剖生理」, 小寺豊彦 著, 照林社, 2016 年 「ネッター解剖学アトラス」, 相磯貞和 訳, 南江堂, 2016 年 「ナースが視る人体」, 薄井坦子 著, 講談社, 1987 年 「解剖生理ワークブック」, 坂井建雄 著, 医学書院, 2022 年

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	人体の構造と機能	単位数	1 単位	梅原 敬弘
科目名	生化学	時間数	18 時間 9 回	

科目概要

生体を構成する物質の基本的な構造を学び、それらがどのように代謝されているかを学ぶ。また、遺伝子と遺伝子情報を生化学の視点で理解させる。

授業目標

1 生体を構成する物質の基本的な構造を図式化できる。
2 栄養およびエネルギー代謝について述べることができる。
3 糖質、脂質・タンパク質・ポルフィリンの構造や代謝について述べることができる。
4 DNA と RNA の構造を理解した上で、遺伝子の複製・修復・組み換え・転写・翻訳について説明できる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	代謝の基礎と酵素・補酵素① ・代謝と生体のエネルギー	講義	
2	代謝の基礎と酵素・補酵素② ・酵素と補因子	講義	
3	代謝の基礎と酵素・補酵素③ ・酵素の反応速度 ・酵素の阻害	講義	
4	生体内の物質代謝① ・物質代謝とエネルギー代謝 ・糖質の構造と糖質代謝	講義	
5	生体内の物質代謝② ・脂質の構造と脂質代謝	講義	
6	生体内の物質代謝③ ・タンパク質の構造とタンパク質代謝	講義	
7	生体内の物質代謝④ ・ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	
8	遺伝子と遺伝子情報① ・遺伝子の複製・修復・組換え ・DNA の複製と修復 ・DNA の組み換え	講義	
9	遺伝子と遺伝子情報 ・転写 ・翻訳 ・RNA 鎖の伸長	講義	

受講上の注意

生化学はこの後に続く科目や実践の基盤となる。単に暗記するのではなく、理解するように努めること。
高校時、化学を履修していない学生は質問等を受け付けるため積極的に行動すること。

評価方法
筆記テスト100%
使用するテキスト
「系統看護学講座 生化学 第14版」, 畠山鎮次 著, 医学書院, 2026年
参考文献
「ナーシング・サプリ イメージできる生化学・栄養学」, ナーシング・サプリ編集委員会, メディカ出版 「集中講義 生化学」, 鈴木敬一郎 著, メジカルビュー社

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	能間 国光
科目名	病理学Ⅰ	時間数	18 時間 9 回	

科目概要

疾病の成り立ち、原因、経過などの側面を理解し、対象者の疾病の理解につなげる。どのようにして病的状態がおこるかを解剖生理学、生化学などの知識を統合し、疾病の原因、発症、経過、治療経過について理解できるようにする。

授業目標

1 人体の構造単位が、遺伝子、タンパク質、細胞、組織、器官、器官系、個体の階層構造を示しながら、ホメオスタシスを維持していることを基本に、疾病ではホメオスタシスが破綻し、各レベルで変化が生じていることを説明できる。
2 病態に特異的な組織学的変化の基礎を説明できる。
3 病因論、病変論の視点から病理について説明できる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	病理学概論① ・細胞組織の損傷と原因 ・組織の適応現象 ・壊死とアポトーシス	講義	
2	病理学概論② ・細胞と組織の変性 ・細胞・組織の創傷に対する反応	講義	
3	循環障害 ・浮腫 ・虚血 ・充血とうっ血 ・血栓 ・塞栓 ・ショック	講義	
4	炎症 ・炎症の分類 ・炎症の全身反応	講義	
5	免疫系 ・NK 細胞 ・アレルギーのしくみ ・免疫不全	講義	
6	感染症 ・感染経路別の治療と予防	講義	
7	腫瘍① ・悪性腫瘍 ・がん腫 ・肉腫 ・がんの転移過程	講義	
8	腫瘍② ・がんの進行度 ・がんの治療	講義	
9	先天異常と遺伝性疾患 ・先天異常 ・遺伝の異常と疾患 ・先天異常・遺伝性疾患の診断と治療	講義	

受講上の注意
予習、復習を行い、解剖生理学・生化学で学んだ知識と統合して理解する。
評価方法
筆記試験 100%
使用するテキスト
「系統看護学講座 病理学 第 6 版」, 大橋健一・他 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「わかりやすい病理学 第 7 版」, 恒吉正澄・他 著, 南江堂, 2022 年

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	中山 浩次
科目名	微生物学	時間数	18 時間 9 回	

科目概要

微生物の世界を探究し、その基本的な特性、分類、生態系での役割を理解する。また、人間の健康に及ぼす影響、特に感染症の原因となる微生物に焦点を当てる。この科目では、微生物による疾病の伝播、防御機構、および感染症の予防と治療について学ぶ。

授業目標

1 微生物の基本的な特徴と分類を説明できる。
2 人間に影響を与える主要な微生物とその生態を学ぶ。
3 感染症伝播のメカニズムと防御策を理解する。
4 微生物学が公衆衛生と感染症管理にどのように応用されているか学ぶ。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	微生物概論 ・微生物の種類と特徴 ・微生物学の歴史 ・微生物の分類と特徴	講義	
2	感染と感染症① ・感染とは ・感染の成立から発症後の経過まで	講義	
3	感染と感染症② ・感染に対する生体防御機構	講義	
4	病原細菌と細菌感染症① ・グラム陽性球菌 ・グラム陰性球菌 ・グラム陰性好気性桿菌 ・グラム陰性通気性桿菌	講義	
5	病原細菌と細菌感染症② ・カンピロバクター ・グラム陽性桿菌	講義	
6	病原細菌と細菌感染症③ ・抗酸菌と放線菌 ・嫌気性菌 ・マイコプラズマ	講義	
7	病原ウイルスとウイルス感染症① ・DNA ウイルス	講義	
8	病原ウイルスとウイルス感染症② ・RNA ウイルス	講義	
9	病原真菌と真菌感染症 ・深在性真菌症をおこす真菌 ・深部皮膚真菌症をおこる真菌 ・表在性真菌症	講義	

受講上の注意

必ず予習を行い講義に参加すること。その際の不明な点は講義中に積極的に質問すること。

評価方法
筆記テスト 100%
使用するテキスト
「系統看護学講座 微生物学」, 吉田眞一 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「微生物学 感染看護学 第 2 版」, 岡田忍緒 編, 2021 年 「シンプル微生物学」, 小熊恵二 編, 南江堂, 2018 年 「標準 微生物学」, 錫谷達夫 編, 医学書院, 2024 年

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数	1 単位	宮﨑 千明
科目名	医療概論	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

医療の全体像を概観し、医学や医療の現状と課題について学ぶことから看護の学習へ発展させる。医学や医療の歴史的変遷について学び、現代医療のしくみやサービス、医療政策を理解し、これからの時代における望ましい医療のあり方について理解する。

授業目標

1 医療の変遷を学び、医の倫理に基づいた現代医療のしくみや医療の役割を理解する。
2 医療サービスを経済的側面から捉え、効果的、効率的な医療のあり方を理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	生きることと死ぬこと ・生命、健康、老い、臨終	講義	
2	医学・医療のあゆみと現代医療 ・医学の歴史と現代医療 ・臨床疫学と EBM	講義	
3	保健・医療・介護① ・保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 ・社会保障制度 ・公衆衛生と保健	講義	
4	保健・医療・介護② ・わが国の医療システム ・救急医療、集中治療 ・がん治療 ・周産期医療 ・放射線診断 ・チーム医療 ・リハビリテーション ・介護	講義	
5	医療と社会① ・医の倫理 ・医療安全	講義	
6	医療と社会② ・医薬品 ・最先端医療 ・医療情報	講義	
7	医療経済学と医療政策① ・医療経済学	講義	
8	医療経済学と医療政策② ・医療政策	講義	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法

筆記テスト 80% 課題(提出状況・内容)20%

2026.4.1

使用するテキスト
「系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 第 2 版 」, 康永秀生 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「看護六法」, 看護行政研究所 編 「国民衛生の動向」, 一般財団法人 厚生労働統計協会

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数	1 単位	柳井 圭子
科目名	関係法規Ⅰ	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

看護職は保健師助産師看護師法をはじめとし、職務上多くの法規に関係し看護の基盤となる法律および関係法規を理解することが不可欠である。関係法規を理解し、看護職として正しく職務を遂行するための根拠や判断基準として習得する。また、チーム医療をする上で他職種の専門性を尊重し協働への理解を図る。

授業目標

1 法の概念や種類、分類がわかる。
2 法規に規定されている看護職の資格・業務・責任について理解する。
3 学習した看護法、医事法、社会保険法の概要がわかる。

DPとの関連		
		1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	法の概念 ・法とは何か ・衛生法の概念と沿革 ・厚生労働行政のしくみ	講義	
2	看護法 ・保健師助産師看護師法 (1)目的と定義、免許取得要件・試験、業務とその範囲、沿革 ・看護師などの人材確保の促進に関する法律 (1)目的、定義、人材確保の促進、ナースセンター、医療過誤、その他罰則刑法等との関連	講義	
3		講義	
4		講義	
5	医事法 ・医療法 (1)医療施設の規制(病院・診療所・助産所) ・保健医療福祉関係者の資格 ・医療を支える法律 他	講義	
6	薬務法 ・薬事一般 ・血液製剤 ・薬害被害者の救済 他 ・麻薬・毒薬などの規制保健衛生法	講義	
7	社会保険法 ・社会保険の理念 ・医療・介護の費用保障 (1)健康保険法、国民健康法、介護保険法 他 ・年金 (1)国民年金法、厚生年金保険法 他	講義	
8		講義	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法
筆記テスト 80%　課題(提出状況・内容)20%
使用するテキスト
「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 第 58 版」, 森山幹夫 著, 医学書院, 2026 年
参考文献
「国民衛生の動向」, 一般財団法人 厚生労働統計協会

2026.4.1

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年 後 期	講義担当者
教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数	1 単位	下田 希美
科目名	地域包括ケアシステム論Ⅰ	時間数	15 時間 8 回	太田 真央

科目概要

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）のあり方について学ぶ。また、地域包括ケアシステムを理解した上で看護師が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。

授業目標

1 地域包括ケアシステムの概念について理解できる。
2 多様な課題を抱え地域で暮らすあらゆる人々へのサービス提供システムについて理解できる。
3 地域包括ケアシステムにおける多職種連携について説明することができる。
4 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について説明することができる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考 等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	地域包括ケアシステム成立の背景と概要①	講義	
2	地域包括ケアシステム成立の背景と概要②	講義	
3	暮らしを支える介護保険制度①	講義	
4	暮らしを支える介護保険制度②	講義	
5	地域包括ケアシステムを支えるサービスと提供システム①	講義	
6	地域包括ケアシステムを支えるサービスと提供システム②	講義	
7	地域包括ケアシステムにおける多職種連携①	講義	
8	地域包括ケアシステムにおける多職種連携②	講義	

受講上の注意

評価方法

筆記テスト 80% 平常点 20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第 7 版」,
河原加代子・他 著, 医学書院, 2026 年

「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 2 公衆衛生」,
神馬征峰・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

なし

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	犬丸 小百合
科目名	看護学概論	時間数	15 時間 8 回	

科目概要

看護の基本概念(人間・環境・健康・看護)を理解し、看護とは何かについて探究する。法的な看護の役割や看護の歴史について学び、看護専門職とは何か理解する。これらのことを統合し、看護観を育成する。

授業目標

1 看護を構成する 4 つの基本概念(看護・人間・健康・環境)について説明できる。
2 看護の定義について自分の言葉で説明できる。
3 看護の本質と機能について説明できる。
4 看護の歴史と変遷について述べることができる。
5 看護専門職とは何かを説明することができる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護とはなにか？ ・語源・歴史的意味 ・看護学の学問的位置づけ ・看護の目的、対象 ・看護の役割	講義	
2	ナイチンゲールの生涯と近代看護への貢献 ・ナイチンゲールの生涯と思想	講義	
3	『看護の覚書』にみる看護の原点とその現代的意義 ・海外における職業的看護の発展 ・日本の看護の歴史	講義	
4	ヘンダーソンの看護理論とは ・『看護の基本となるもの』	講義	
5	看護の定義と国際的視点 ・看護理論家による看護の定義 ・看護職能団体による看護の定義	講義	
6	健康のとらえ方と看護 国民の健康状態と社会の変化 ・人間の成長、発達 ・人間のニードに関する理論 ・健康の概念と看護	講義	
7	専門職としての倫理と責任 ・専門職としての看護 ・看護における倫理 ・臨床倫理(倫理原則)	講義	

8	看護職における法的責任と専門職としての義務 ・看護の役割と機能　　・看護と法 ・看護実践を支えるもの	講義	

受講上の注意
全ての看護学の土台となるため、自ら学ぶ姿勢をもち積極的に学ぶ。
評価方法
筆記テスト 70%　看護観についてのレポート 30%
使用するテキスト
「系統看護学講座 看護学概論 第 18 版」, 茂野香おる著, 医学書院, 2026 年 「看護覚え書 第8版」, 現代社, 2026 年 「看護の基本となるもの」, 日本看護協会出版社, 2026 年
参考文献
「看護学概論～看護探究へのアプローチ～」, 田中幸子 著, 医師訳出版株式会社, 2022 年

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	日高 艶子 小浜 さつき
科目名	看護理論	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

本科目では、看護理論の発展の歴史と代表的な看護理論家とその理論で説明される主要概念について講義とグループワーク・プレゼンテーションを通して学習する。

授業目標

1 看護理論の発展の歴史を理解する。
2 代表的な看護理論家と理論の主要概念について理解する。
3 理論の実践への適用について学ぶ。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護理論と看護実践の発展及び看護理論の分類	講義	日高
2	看護理論と看護実践の発展及び看護理論の分類	講義	日高
3	看護理論家 (ヒルデガード・E・ペプロウ/パトリシア・ベナー)	講義	日高
4	看護理論家 (マドレン・M・レイニンガー/ドロセア・E・オレム)	講義	小浜
5	看護理論家(中範囲理論 (マール・H・ミッシェル/コービンとストラウス)	講義	日高・小浜
6	看護理論家(シスター・カリスタ・ロイ)	講義	日高
7	看護理論家(シスター・カリスタ・ロイ)	講義	日高
8	看護理論家(シスター・カリスタ・ロイ)	講義	日高
9	看護理論家(シスター・カリスタ・ロイ)	講義	日高
10	看護理論の実践への適用 (電子カルテへの導入、看護師への教育例)	講義	日高
11	看護理論に基づくケース・スタディ	演習	日高・小浜
12	看護理論に基づくケース・スタディ	演習	日高・小浜
13	プレゼンテーション 代表的な理論家についてグループで調べ、メタパラダイムの定義(人間・健康・環境・看護)についてプレゼンテーションを行う。	演習	日高・小浜

14	プレゼンテーション 代表的な理論家についてグループで調べ、メタパラダイムの定義（人間・健康・環境・看護）についてプレゼンテーションを行う。	演習	日高
15	まとめ	講義	日高

受講上の注意

テキストに記載された各理論家の章を事前に読み、予習に取り組んでください。講義後は、復習に取り組んでください。

評価方法

筆記試験を元に総合的に評価を行う。評価者：科目責任者

使用するテキスト

「系統看護学講座 看護学概論 第 18 版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026 年

「看護理論家の業績と理論評価―第 3 版―」編集：筒井真優美,医学書院, 2025 年

参考文献

「ザ・ロイ適応看護モデルー第 2 版-」 著：シスター・カリスタ・ロイ, 監訳：松木光子,
医学書院, 2010 年

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	佐藤 みゆき 桑野 ゆかり
科目名	共通技術Ⅰ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

人間関係を成立させるための技術としてのコミュニケーションの基礎的知識を学び、ロールプレイを行いながら看護の場面で活用できるための能力を身につける。看護の対象者、看護者自身を守るための感染予防と医療安全について理解することで、あらゆる看護援助を安全に実践するための基礎を身につける。

授業目標

1. 看護技術を行うため必要な技術の考えを学ぶ
2. コミュニケーションの基本技術を学び、効果的コミュニケーションを考えながら身につけることができる。
3. 医療における感染予防についての基本的な知識・技術を身につけることができる
4. 医療安全に対する基本的な考え方と対策が理解できる

DPとの関連		
	○	1.多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2.対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠(EBM)に基づき、安全に判断することができる。
	○	3.医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
	○	4.医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5.ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	基礎看護技術ガイダンス ・技術とは何か ・看護技術の特徴	講義 シンクペア シェア	佐藤
2	コミュニケーション ・コミュニケーションの意義と目標 ・コミュニケーションの構成要素と成立過程 ・関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義 シンクペア	桑野
3	効果的なコミュニケーションの実際 ロールプレイング リフレクション	講義	桑野
4	プロセスレコード	講義 演習	桑野
5	コミュニケーション障害への対応	講義 Gw	桑野
6	感染防止の技術 感染とその予防の基礎知識 標準予防策	講義	佐藤
7	衛生的手洗い	演習	佐藤
8	感染経路別予防策	講義	佐藤

	接触予防策 飛沫予防策 空気予防策		
9	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 無菌操作	講義	佐藤
10	感染予防の技術 個人防護用具(PPE)	演習	佐藤
11	感染予防の技術 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い	演習	佐藤
12	安全確保の技術 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	佐藤
13	安全確保の技術 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ ポスターセッション	佐藤
14	安全確保の技術 発表 （ポスターセッション）	ポスターセッション 講義	佐藤
15	まとめ 確認テスト 国家試験対策	講義 小テスト	佐藤

受講上の注意

【講義準備】
講義資料は前週までに配布するため、必ず事前学習をして講義に参加する。
教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。

【演習について】
演習は、白衣、ナースシューズ、白の靴下を着用する。
髪は肩にかからないように整える。長い場合は、一つに結びネットでまとめる。
爪は短く切り、清潔に整える。
実習室には、指示された物品のみ持ち込む。
授業開始 5 分前までに手洗いをすませておく。

【演習の進め方】
準備・片づけはグループで協力してすすめる。
患者役・看護師役・観察者役を体験できるようにする
演習室内での飲食は禁止する。
廃棄物は学校の指示どおりに行う。
演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。

【その他】
講義を受けていない場合は演習に参加できない。
演習記録は評価の対象とするため、必ず提出する。
技術の状況によっては演習時間が延長する場合があるため、予定を入れないようにしておく。
技術チェックは評価には入れないが、一定の基準に達することを前提に行うため、十分な練習をして臨むこと。

評価方法

筆記テスト 60%　 演習レポート・演習態度 40%

使用するテキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版」, 任和子・他 著, 医学書院, 2026 年

2026.4.1

参考文献

「看護コミュニケーション」, 高橋清美･他 著, ヘルス社, 2022 年
「看護コミュニケーション」, 篠崎恵美子 著, 医学書院, 2024 年

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 前 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	平野 薫 太田 真央
科目名	共通看護技術Ⅱ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

看護実践で基盤となる安全・安楽な療養環境の調整、活動、休息と睡眠、移動・移送の技術について修得する。演習では、科学的根拠に基づき、対象者の安楽や自立の視点にも配慮し、確実な援助が実践できるようグループで創意工夫しながら学習する。

授業目標

1 各看護技術について科学的根拠を説明できる。
2 療養生活における環境調整(ベッドメーキング等)を安全・安楽・自立に配慮して実施できる。
3 安楽に配慮した活動と休息に関する援助技術を実施できる。
4 患者にとって安全で安楽な移動・移送を原理・原則に基づき実施できる。
5 苦痛の緩和・安楽の技術についての方法と有効性を理解できる。

DPとの関連		
	○	1.多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2.対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠(EBM)に基づき、安全に判断することができる。
	○	3.医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
	○	4.医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5.ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	環境調整技術① ・療養環境の基準 ・病床のアセスメントの視点 ・ベッドメーキング技術	講義	平野
2	環境調整技術② 環境整備、シーツ等たたみ方	演習	平野
3	環境調整技術③ ベッドメーキング	演習	平野
4	環境調整技術④ ベッドメーキング	演習	平野
5	環境調整技術⑤ 臥床患者のベッドメーキング	演習	平野
6	環境調整技術⑥ 臥床患者のベッドメーキング	演習	平野
7	活動・休息援助技術① ・姿勢 ・身体不活動による影響とその予防 ・ボディメカニクス ・体位変換	講義	太田
8	活動・休息援助技術② 体位変換 ・左右への移動 ・仰臥位から側臥位への移動 ・上方への移動 ・仰臥位からファーラー位への移動	演習	太田
9	活動・休息援助技術③ 体位変換 ・仰臥位から長座位への移動 ・長座位から端座位への移動 ・端座位から立位への移動	演習	太田

10	活動・休息援助技術④ ・歩行の援助　・移乗・移送（車椅子、ストレッチャー、移乗リフト）	講義	太田
11	活動・休息援助技術⑤ ・歩行の援助　・器材の点検等　・車いすへの移動、移送 ・ストレッチャーによる移送	演習	太田
12	活動・休息援助技術⑥ ・歩行の援助　・器材の点検等　・車いすへの移動、移送 ・ストレッチャーによる移送	演習	太田
13	苦痛の緩和・安楽確保の技術① ・体位保持（ポジショニング） ・罨法　・安楽をもたらす身体ケア	講義	太田
14	苦痛の緩和・安楽確保の技術② ・体位保持（ポジショニング）	演習	太田
15	苦痛の緩和・安楽確保の技術③ ・罨法 ・リラクセーション法	演習	太田

受講上の注意

【講義準備】
必ず事前学習をして講義に参加する。
教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。

評価方法

筆記テスト 60%　演習記録 30%　授業・演習参加態度 10%

使用するテキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版」, 任和子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第 1 版」, 松尾ミヨ子・他 著, メディカ出版, 2022 年
「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第 1 版」, 松尾ミヨ子・他 著, メディカ出版, 2022 年
「看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 第 1 版」, 藤本真記子・他 著, メディックメディア, 2023 年
「わかるできる看護技術 VOL.1 根拠からわかる！実習で実践できる！基礎看護技術」, 中村充浩・他 著, 照林社, 2022 年
「看護技術プラクティス【第 4 版 動画付き】」, 竹尾恵子・他 著, Gakken, 2022 年

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 通年	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	桑野 ゆかり 平野 薫
科目名	共通看護技術Ⅲ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄは、対象の健康の状態を把握するために、コミュニケーションの技術を基盤とし、人間生活および健康を系統的かつ包括的に捉える方法である。情報を意図的に収集し、正確に査定し、看護の方向性を決定することから臨床判断能力や看護の基盤となる科目である。演習では、系統的ｱかつ段階的に健康査定するフィジカルイグザミネーション技術を用い、心理・社会的側面を含め対象者を全人的にアセスメントする知識・技術を習得を目指す。

授業目標

1 看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解する。
2 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄに必要な診察技術（問診・視診・触診・打診・聴診）の原則を理解し、方法を習得する。
3 バイタルサイン測定の目的と方法を理解し、体温・脈拍・呼吸・血圧の測定の技術習得と正常・異常の判断ができる。
4 意識の観察とアセスメントができる。
5 身体計測

DPとの関連		
	○	1.多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2.対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠（EBM）に基づき、安全に判断することができる。
	○	3.医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
	○	4.医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5.ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考 等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントの意義と目的 ヘルスアセスメントにおける観察 1）面接・問診の技術	講義	桑野
2	ヘルスアセスメントとは セルフケア能力のアセスメント	講義	桑野
3	1. アセスメントの枠組み 2. 代表的なアセスメントの枠組み	講義	桑野
4	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄに必要な技術 1. 問診の技術 2. 健康歴の聴収 3. セルフケア能力のアセスメント	講義	桑野
5 6	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄに必要な技術 1. 視診の技術 2. 触診の技術 3. 聴診の技術 4. 打診の技術	講義 演習	桑野
7 8	バイタルサイン測定 1. 体温 2. 脈拍 3. 呼吸	講義	平野

9	バイタルサイン測定 1. 血圧 1)血圧のメカニズム 2)血圧の測定方法 2.	講義	平野
10 11	バイタルサイン バイタルサイン測定 バイタルサイン測定報告	演習	平野
12 13	意識 1)意識レベル 2)意識の観察	講義 演習	平野
14 15	計測 計測の技術 身長・体重・皮下脂肪の計測・腹囲測定	講義	平野

受講上の注意

【講義準備】
講義資料は前週までに配布するため、必ず事前学習をして講義に参加する。
教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。

【演習について】
演習は、白衣、ナースシューズ、白の靴下を着用する。
髪は肩にかからないように整える。長い場合は、一つに結びネットでまとめる。
爪は短く切り、清潔に整える。
実習室には、指示された物品のみ持ち込む。
授業開始 5 分前までに手洗いをすませておく。

【演習の進め方】
準備・片づけはグループで協力してすすめる。
患者役・看護師役・観察者役を体験できるようにする
演習室内での飲食は禁止する。
廃棄物は学校の指示どおりに行う。
演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。

【その他】
講義を受けていない場合は演習に参加できない。
演習記録は評価の対象とするため、必ず提出する。
技術の状況によっては演習時間が延長する場合があるため、予定を入れないようにしておく。

評価方法

筆記テスト 60%　演習レポート 20%　態度 20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版」, 任和子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「看護がみえる③ フィジカルアセスメント」, メディックメディア, 2020 年
「呼吸音聴診ガイドブック」, 山内豊明 著, 医学書院, 2018 年 第一般

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 後 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	桑野 ゆかり
科目名	日常生活援助技術Ⅰ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

人間にとっての衣生活や、身体を清潔に保ち、身だしなみを整える意義を理解する。対象者の自立度や身体状況をアセスメントし、その人らしく日常生活を送るために必要な整容や清潔援助の基礎的な知識と技術を学ぶ。

授業目標

1 人間にとって身だしなみや清潔という行為の意義を理解し、対象者がその人らしく生活するための援助の基本を理解する。
2 皮膚や粘膜の構造やしくみ、衣服の役割など、身体の清潔保持に必要な知識とアセスメントの視点について理解する。
3 対象者の安全・安楽・自立・個別性に留意し、根拠に基づいた身だしなみを整えるための基本的な援助技術を実践する。

DPとの関連		
	○	1.多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2.対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠(EBM)に基づき、安全に判断することができる。
	○	3.医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
		4.医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5.ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	主題・授業内容	方法	講師・備考
1	なぜ人は身だしなみを整えるのだろう ・人間にとっての「清潔」の意義 ・皮膚・粘膜の構造と機能 ・清潔援助の効果 ・患者の状態に応じた援助の決定と留意点	個人ワーク 講義 GW 小テスト	
2	身だしなみが整うとは ・身だしなみが整っている人、整っていない人 ・身だしなみの目的と方法 ・生活の質:QOL と整容の関連性 ・整容:洗面(目・耳・鼻)・爪切り・髭剃り	個人ワーク 講義 DVD GW 小テスト	
3	入浴・シャワー浴 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	個人ワーク 講義 DVD GW 小テスト	
4	全身清拭 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	個人ワーク 講義 DVD GW 小テスト	
5	衣生活と寝衣交換 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・全身清拭・寝衣交換の演習計画立案	個人ワーク 講義 DVD GW 小テスト	
6～7	全身清拭・寝衣交換 ・臥床患者の全身清拭・寝衣交換の実際 ・演習計画に基づき演習を実施する	演習	

8	洗髪 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・洗髪の演習計画立案	個人ワーク 講義 DVD GW 小テスト	
9	洗髪 ・ケリーパッドを用いた洗髪の実際 ・洗髪車、手作りケリーパッドを用いた洗髪の実際 ・座位・臥床での洗髪の実際 ・演習計画に基づき演習を実施する	演習	
10	整容、睡眠・休息の援助 ・整容の援助：洗面（目・耳・鼻）・爪切り・髭剃り ・口腔ケア ・睡眠援助の基礎知識と援助の実際	個人ワーク 講義 DVD GW 小テスト	
11	部分浴（手浴、足浴） ・手浴、足浴の目的と効果 ・手浴、足浴の援助の方法 ・手浴、足浴の演習計画立案	個人ワーク 講義 DVD GW 小テスト	
12	部分浴（手浴、足浴） ①臥床患者の手浴、足浴の実際 ②目的に応じた手浴、足浴の実際 ・演習計画に基づき演習を実施する	演習	
13～14	清潔援助の実際 事例に応じた清潔援助を計画、実施	演習	
15	清潔アセスメント 事例に基づいた援助方法の検討	討議	

受講上の注意：別表参照

【講義準備】
必ず事前学習（個人ワークシートを配布）をして講義に参加する。
教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
講義終了時に小テストを実施、評価対象とする。

【演習について】
演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。
演習は、白衣、ナースシューズ、白の靴下を着用する。
髪は肩にかからないように整える。長い場合は、一つに結びネットでまとめる。
爪は短く切り、清潔に整える。
実習室には、指示された物品のみ持ち込む。
授業開始 5 分前までに手洗いをすませておく。

【演習の進め方】
準備・片づけはグループで協力してすすめる。
患者役・看護師役・観察者役を体験できるようにする。
演習室内での飲食は禁止する。
廃棄物は学校の指示どおりに行う。
演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。

【その他】
講義を受けていない場合は演習に参加できない。
演習記録は評価の対象とするため、必ず提出する。
技術の状況によっては演習時間が延長する場合があるため、予定を入れないようにしておく。

評価方法

筆記テスト 50%　演習記録 30%　態度 10%　小テスト 10%

2026.4.1

使用するテキスト
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第19版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026年 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第19版」, 任和子・他 著, 医学書院, 2026年
参考文献
「看護技術がみえる① 基礎看護技術」, 医療情報科学研究所 編集, メディックメディア, 2016年 「看護技術プラクティス 第4版」, 竹尾恵子監修, GAKKEN

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 後 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	清成 万里子
科目名	日常生活援助技術Ⅱ	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

「食事」と「排泄」は私たちの生命を維持するために欠かせない生活行動である。これらの生活行動の意義を考え、生活者の個別性を重視した援助についてグループで創意工夫しながら学習する。また、科学的根拠を踏まえ、各領域で行う援助の基本となる援助技術について学習する。

授業目標

1 看護の対象である人間にとって、よりよい食事とは何かを学ぶことができる
2 対象者の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント方法を理解することができる
3 排泄のメカニズムを理解し、排泄アセスメント方法を理解することができる
4 患者の自立度に応じて、安全・安楽に配慮した食事摂取・排泄行動に必要な援助方法を考えることができる
5 対象者に必要な食事摂取・排泄行動の基本的援助技術が実施できる

DPとの関連		
	○	1.多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2.対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠(EBM)に基づき、安全に判断することができる。
	○	3.医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
		4.医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5.ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	健康と食事について ・食事の意義 ・消化・吸収の器官と役割 ・栄養状態のアセスメント(SGA、ODA) ・摂食、嚥下のアセスメント	講義	基礎Ⅱ 第２章 ＡＢ
2	食事援助の基本 ・医療施設で提供される食事 ・誤嚥について ・食事援助の基本 ・食事と口腔ケア	講義 GW	
3	食事と口腔ケア ・食事の援助の実際 ・摂食嚥下訓練の実際 ・口腔ケアの方法	演習	
4	経口摂取できる人への食事援助技術 ・食事介助の実際 ・嚥下食 ・とろみ剤の使用	演習	
5	経口摂取が困難な人への栄養摂取方法 ・非経口的栄養摂取の援助と看護	講義	基礎Ⅱ 第２章 ＣＤ
6	経口摂取が困難な人への食事援助技術 ・経鼻経管栄養 ・胃ろう ・経腸栄養 ・中心静脈栄養	演習	
7	食欲不振のある対象者への援助 ・栄養アセスメントの実際 ・事例に基づいた援助方法の検討	講義 GW	
8	健康と排泄 ・排泄の基礎知識 ・排泄のアセスメント ・自然排泄を促す援助 ・尿器・便器の使用方法	講義	基礎Ⅱ 第３章 Ａ

9	排泄を促す看護技術 ・排泄援助の基本　・陰部洗浄 ・排泄の援助における看護師の役割	講義	基礎Ⅱ 第３章 A
10	自然な排泄を促す援助方法① ・車いすでのトイレ介助 ・ベッドサイドでの排泄（ポータブルトイレ）	演習	
11	自然な排泄を促す援助方法② ・床上排泄　・オムツ交換　・陰部洗浄	演習	
12	排泄機能障害と看護 ・排泄機能障害の基本　・排泄機能障害と看護 ・ストマについて	講義	基礎Ⅱ 第３章 ＢＣ
13	自然な排尿が困難な人への援助 ・導尿　・尿道膀胱留置カテーテル	演習	
14	自然な排便が困難な人への援助 ・摘便　・浣腸　・陰部洗浄	演習	
15	食事・排泄アセスメント ・事例に基づいた援助方法の検討	講義 GW	

受講上の注意

・必ず事前学習をして授業に参加する。
・教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
・演習に関する講義に欠席した場合は、原則演習に参加できない。
・講義に欠席した場合は、翌登校日に担当教員に相談に行く。
・演習時は、身だしなみチェック表に沿って、身だしなみを整える。
・演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。
・授業開始 5 分前までに手洗いをすませておく。
・演習室内での飲食は禁止とし、指示された物品以外は持ち込まない。
・演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。
・演習を欠席した場合は、翌登校日に担当教員に相談し、時間外で自己学習を行う。

評価方法

筆記テスト 60%　講義態度 10%　演習態度・演習記録 30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版」, 任和子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

なし

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 後 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	桑野 ゆかり
科目名	フィジカルアセスメント技術	時間数	30 時間 15 回	

科目概要

系統別フィジカルイグザミネーションの技術を学び、看護実践を選択し決定する際の思考である臨床判断「気づき」を得ることにより臨床判断能力を身につけるための基礎とする。

授業目標

1 看護記録の概要を説明できる。
2 系統別フィジカルアセスメントの概要を説明できる。
3 系統別フィジカルアセスメントを通して対象の重要な反応を見つけ、今の状態を把握し意味づけることができる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護記録 ・観察の意義 ・看護記録とは ・記載・管理における留意点 ・看護記録の構成	講義	
2	神経系のフィジカルアセスメント① ・神経系の自覚症状の問診 ・運動機能の評価 ・感覚機能の評価 ・腱反射と表在反射 ・情報からわかること	講義	
3	腹部のフィジカルアセスメント① ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・情報からわかること	講義	
4	外皮系・乳房・腋窩のフィジカルアセスメント① ・外皮系のアセスメント ・乳房・腋窩のアセスメント	講義	
5	頭部・感覚器のフィジカルアセスメント① ・自覚症状の問診 ・頭頸部のアセスメント ・眼のアセスメント ・鼻のアセスメント ・耳のアセスメント ・頸部・甲状腺の視診・触診	講義	
6	筋骨格系のフィジカルアセスメント① ・問診、視診、触診 ・関節可動域 ・徒手筋力テスト ・ADL 評価 ・情報からわかること	講義	
7～8	頭部・感覚器のフィジカルアセスメント②	演習	
9	腹部のフィジカルアセスメント② 神経系のフィジカルアセスメント②	演習	
10～11	筋骨格系のフィジカルアセスメント②	演習	

12	呼吸器のフィジカルアセスメント① ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・情報からわかること	講義	
13	循環器のフィジカルアセスメント① ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・情報からわかること	講義	
14～15	呼吸器のフィジカルアセスメント② 循環器のフィジカルアセスメント②	演習	

受講上の注意

【講義準備】
講義資料は前週までに配布するため、必ず事前学習をして講義に参加する。
教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。

【演習について】
演習は、白衣、ナースシューズ、白の靴下を着用する。
髪は肩にかからないように整える。長い場合は、一つに結びネットでまとめる。
爪は短く切り、清潔に整える。
実習室には、指示された物品のみ持ち込む。
授業開始 5 分前までに手洗いをすませておく。

【演習の進め方】
準備・片づけはグループで協力してすすめる。
患者役・看護師役・観察者役を体験できるようにする
演習室内での飲食は禁止する。
廃棄物は学校の指示どおりに行う。
演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。

【その他】
講義を受けていない場合は演習に参加できない。
演習記録は評価の対象とするため、必ず提出する。
技術の状況によっては演習時間が延長する場合があるため、予定を入れないようにしておく。

評価方法

筆記テスト 50%　演習記録 20%　ロールプレイ評価 20%　演習参加態度 10%

使用するテキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版」, 茂野香おる・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版」, 任和子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「看護がみえる③ フィジカルアセスメント」, メディックメディア, 2020 年
「呼吸音聴診ガイドブック」, 山内豊明 著, 医学書院, 2018 年
「

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 後 期	講義担当者
教育内容	地域・在宅看護論	単位数	2 単位	入江 奈津恵
科目名	地域・在宅看護概論	時間数	45 時間 23 回	

科目概要

病院完結型から地域完結型の医療提供体制への転換が求められている現状を理解し、地域・在宅看護の基盤を養う。暮らしとは何かを考え、可能な限り住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるための看護の役割と活動の場の多様性を理解する。

授業目標

1 人々の「暮らし」の拠点としての「地域」について考えることができる。
2 看護の対象者を日々の暮らしを営んでいる生活者として理解し、暮らしと健康との関係について考えることができる。
3 家族をひとつのシステムとしてとらえ、看護の対象として理解することができる。
4 「暮らしを支える看護」とはどのようなものかイメージすることができる。
5 地域・在宅看護が提供される様々な場を知り、看護師の役割を理解することができる。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1	人々の暮らしと地域・在宅看護 ・暮らしと地域を理解するための考え方 システム理論	講義	
2	人々の暮らしと地域・在宅看護 ・看護の対象	講義	
3	人々の暮らしと地域・在宅看護 ・暮らしとはなにか	講義 グループワーク	
4	人々が暮らす地域の理解と健康 ・地域の特性、多様性を理解する ・暮らしと地域、健康の関係を考える	講義 グループワーク	
5	私たちが生活する地域の理解① ・私たちの生活に必要な社会資源とはなにか	講義 グループワーク	
6	私たちが生活する地域の理解② ・学校周辺の地域を理解する(データ収集)①	講義 フィールドワーク	
7	私たちが生活する地域の理解② ・学校周辺の地域を理解する(データ収集)②	講義 フィールドワーク	
8	私たちが生活する地域の理解③ ・学校周辺の地域を理解する(地域社会資源マップ作成)	グループワーク	
9	私たちが生活する地域の理解④ ・博多区役所企画振興課へのインタビュー	フィールドワーク	

10	地域・在宅看護の対象① ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルの多様性	講義	
11	地域・在宅看護の対象② ・わが国における家族の現状とその変遷 ・看護の対象としての家族理解(1)	講義	
12	地域・在宅看護の対象③ ・看護の対象としての家族理解(2)	講義	
13	地域における暮らしを支える看護① ・暮らしを支える看護	講義 グループワーク	
14	地域における暮らしを支える看護② ・看護師に求められる態度・知識・姿勢	講義 グループワーク	
15	地域における暮らしを支える看護③ ・広がる看護の対象と提供方法	講義	
16	地域・在宅看護の対象④ ・家族が療養者になった場合の家族の機能	講義 グループ ワーク	
17	地域での暮らしにおけるリスクの理解 ・暮らしにおけるリスク②	講義 グループワーク	
18	地域での暮らしにおける災害対策 ・暮らしと災害	講義	
19	地域での暮らしにおける災害対策 ・地域で暮らす人々が行う災害時の備え ・災害時の地域・在宅看護の役割	講義	
20	地域・在宅看護実践の場① ・地域包括ケアシステム ・医療機関で提供される看護	講義	
21	地域・在宅看護実践の場② ・在宅看護と施設看護	講義	
22	地域・在宅看護実践の場③ ・その他のサービスの場で提供される看護	講義	
23	地域・在宅看護実践の場④ ・療養の場の移行時の看護、継続看護	講義 グループワーク DVD 視聴	

受講上の注意

講義前には事前学習をしておくこと。
事前課題については授業開始前までに学習しておく。
グループワークには積極的に参加すること。

評価方法

筆記テスト 70%　レポート 30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第 7 版」,
河原加代子・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

「基礎からわかる地域・在宅看護論」, 池西静江 著, 照林社, 2021 年
「よくわかる在宅看護」, 角田直枝 編, 学研メディカル秀潤社, 2020 年

2026.4.1

分野	専門分野	配当時期	1 年 後 期	講義担当者
教育内容	成人看護学	単位数	1 単位	太田 真央
科目名	成人看護学概論Ⅰ	時間数	15 時間 8 回	平野 薫

科目概要

成人看護の対象を成長発達段階別に、身体的・精神的・社会的側面から捉える。現代の社会情勢を視野に入れながら成人の健康に及ぼす様々な要因や健康問題を考える。

授業目標

1 成人のライフサイクルにおける特徴や健康問題を理解できる。
2 成人期にある対象の健康に及ぼす要因について理解する。
3 成人の保健の動向と対策について理解する。

DPとの関連		
	○	1.生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2.健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3.地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4.看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5.誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・備考 等)

回	学習内容と成果	方法	備考
1.2	対象者の理解、対象者の生活 生涯発達の特徴、成人各期の特徴、 生活を営むこと、人生を辿る事、家族とのかかわり方	講義・GW	平野
3	成人保健の動向 成人保健の概念、成人保健の年次推移 成人の疾病構造の変化	講義	平野
4	健康をおびやかす要因(生活習慣と生活習慣病) 健康バランスの機能要素、ライフスタイルと問題、 予防対策、疾患との対策	講義	平野
5	健康生活をはぐくむ看護 ヘルスプロモーションと看護、健康増進のための環境づくり 地域社会・職場におけるヘルスプロモーションを促進する 看護	講義 GW	太田
6.7	生活の中で健康行動を生みはぐくむ看護 健康問題を持つ者と看護師の関係 集団における看護アプローチ、健康行動の促し方 健康行動が促進する看護アプローチ	講義	太田
8	健康生活を支援する環境つくり	講義	太田

受講上の注意

レポート課題は時間厳守で提出をお願いします。評価になります。

評価方法

筆記テスト 70% 授業態度(レポート提出含む)30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 成人看護学総論 第16版」, 小松浩子・他 著, 医学書院, 2026年

参考文献

なし

2026.4.1